

極楽寺だより

長門市三隅下
野波瀬
0837(43)0625

秋の永代経法要のご案内

次のとおりおつとめいたしますので、お誘いあわせの上、お参り下さいますようお願いいたします。

日時 十一月十六日(月)

昼一時半 夜七時半

十一月十七日(火)

昼一時半

講師 広島県 加計町 正覚寺住職

清胤 弘英 師

◇ 昼間仕事の方は、ぜひ夜にお参り下さい。
◇ 昼、夜と続けて参って下さる方が多くなってきました。有り難うございます。

えいたい きようほうよう
永代経法要とは

「いつまでも(永代)お念仏の

み教え(お経)が伝えられます

ように」と願い(仏徳讃嘆)、

またご門徒のご先祖が、志を納

めてお寺を護りお念仏を喜ば

れたことを感謝して(祖恩

報謝)お勤めする法要です。

ですから、「その心を大切に

受け継ぐ」ということは、「さ

そいあって法を聞き、如来さま

のご恩をよろこぶ」ということ

であります。



雅楽バンド インセンス・スティック ライブ 11月16日(月) 秋の法要 夜の座にて

継職法要の祝宴でも演奏しました、雅楽バンド「インセンス・スティック」のライブが、秋の法要夜の座(11/16)にて行われます。「ソウルフルな音楽を、いにしへの音色に乗せて、あなたの心に届けます」をテーマに、雅楽の曲目だけでなく、演歌や歌謡曲も披露します。住職も、メンバーの一人です。

ちなみに、バンド名「インセンス・スティック」はどんな意味でしょう。ヒントは、お寺やお仏壇の必需品。正解は、当日発表! 乞う、ご期待!!





ブーメラン 住職

民主党政権みんしゅとうせいけんとなって初めての国会が始まりました。これまで与党よとうだった自民党が野党やとうに、野党だった民主党が与党へと逆転したことで、どんなことになるのか注目が集まっています。ある方がテレビで、「ブーメラン国会」と評しておられたことが、妙に心に残りました。民主党には、これまで野党の立場で言ってきたことがそのまま返ってくる。自民党には、これまで与党の立場でやってきたことがそのまま返ってくる。自分のことはさて置いてということになる、発言がぶれるという指摘しってきや無責任さがクローズアップされるわけですから、それぞれの質問しつもん・答弁とうべんにまさしく党の真価しんかが問われてきます。ただし、それを指摘し合うだけでは、ただの中傷合戦ちゅうしょうがっせんにしかなりません。自分を問い直しながらも、生産的せいさんてきで前向きまえむきな議論ぎろんにして欲しいものです。

ところで、私の生活を振り返ってみるとどうでしょう。どうも、人事じんじんにして笑うわけにはいかないようです。言っていることと、していることが違ったり、発言がぶれることなど日常茶飯事にちじょうさはんじなのかもしれません。私の言動げんどうは、政治家の先生のように新聞記事や議事録ぎじろくで残されていくわけではないかもしれませんが、それを指摘されないだけではないかと考えさせられるのです。ただ人がぶれているのは、すぐにわかりますね。「この人、前に言ったことと全然違うじゃない」と眉まゆをひそめながら、「そんなことに、いちいち目くじら立てるのも大人気ない」などと、黙って許すことで悦えつに入っていたりして。

妙みょう好人こうにんと讃たたえられ、生涯しょうがい念仏ねんぶつと共に生きられた因幡いなばの源左げんざさん(1842-1930年)は、「年が寄ると気が短くなって、よく腹が立つようになる。人を許すことが大切なのだよ。」と言われた際に、「おらは、まんだ人さん

に堪忍かんにんして上げたことはごんせんやあ。人さんに堪忍
 してもらってばかりおりますだいな。」と仰ゆるったそう
 ず。人を許ゆるしているつもりが、実は許すよりも先に
 許ゆるされていた。それを受け止めていく態度から、懐ふところの
 深ふかさと言葉の重おもみ、そして出遇いの豊かさが伝わってきま
 す。こんな言葉の前では、「許してやっている」という態度の
 傲慢ごうまんさや軽薄けいはくさが、恥はずかしくなってしまう。
 私は何も「だから、人のことをどうこう指摘してきするもの
 はない」と言いたいわけではないのです。こういう世界を通
 すからこそ、言葉は深く重いものとなるのでしよう。ブー
 メランのように、自分の言葉を自身に返していくことが、
 実は豊かな世界を開いていく。「念仏と共に生きる」とは、
 まさしくそんな営いとなみなのだと教えられるのです。 **秀**



極楽寺だよりエッセイ

オシエノカケラ

今号より、極楽寺だよりのエッセイコーナーを、「オシエノカケラ」というタイトルにしました。継職法要の際にお配りした、これまでの極楽寺だよりエッセイをまとめた冊子『オシエノカケラ』をそのまま転用したわけです。冊子の序文きりごみにも記しましたが、エッセイとはいいながら、私はいつも親鸞しんらんという人を、親鸞聖人が出遇われた念仏の世界を意識しながら書いております。少々大袈裟おちげさな表現になりますが、私たちが生きるこの現代社会は、念仏をよりどころにしたときにどのように見えてくるのかをテーマにしているのです。とはいっても、かなり私の主観しゅくわんが混じっていることも事実。読まれる皆様が、この文章から“教えのカケラ”と出遇っていただけたら幸いです。

拙つたない文章ではありますが、これからも書き続けていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願ひします。(住職)

今後の 行事 予定

12月18日(金) 14時	仏婦報恩講
12月31日(木) 11時45分	除夜の鐘撞き
1月 1日(金) 10時	元旦会
1月14日~16日	御正忌報恩講



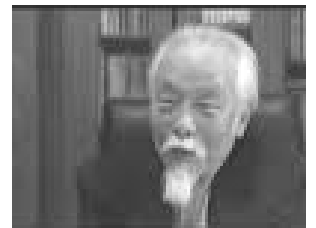
継職法要ビデオ 上映のお知らせ

秋の法要 11月16日 昼の座にて

5月の住職継職法要のビデオ(ダイジェスト版 約10分)が出来上がりました!秋の法座・昼の座の後に上映したいと思います。このビデオ、住職の大好きなロックバンド・サンボマスターの『歌声よおこれ』という曲に合わせて映像が流れるという、いわばミュージックビデオ風に作ってあります。実はこの選曲には、住職の深いこだわりがあるのです。

かつて我が子を自死という形で亡くされ、その悲しみの中で親鸞聖人の教えに出遇われた、作家の高史明さんという方がおられます。彼は「生きてくれ」との呼びかけも虚しく自ら死を選ぶ子どもたちにこう叫ばれました。

「世に苦が満ち満ちています。私が「生きてくれ!」と云うことは、それらの子に届かないのです。『念仏よ興れ!』と、私にはそれしかいえないのであります。この世に満ち満ちている苦のすみずみで、『念仏よ興ってくれ!』と、そのようにしか言えないのであります。」



高史明さん

深い闇の中にいる彼らには、「生きてくれ!」という私の叫びなど届かない。しかし、念仏をよりどころとして、苦悩の人生を生き抜かれた人々の歩みは確かに存在する。闇にあっても、決して独りではない。そこには常に如来の願心である「南無阿弥陀仏」がより添って下さる。その人生の確かな響きを感じて欲しい。あなたのために声をふるわせて呼び続ける世界があることに、氣づいて欲しい。念仏よ響け!あなたの心に。念仏よ、おこってくれ!!

高さんの切実なる願いは叫びとなり、御堂にいた人々の心を大きく揺り動かしました。私がサンボマスターの『歌声よおこれ』を初めて聞いた時に重なったのが、この「念仏よ興れ!」という高さんの叫びだったのです。



歌声よ響き出してウソをも抱いて 僕らの泣いた昨日を消してくれ
夜風に僕らは歌うのさ そして夜を越えて二人なってあなたのために
声をふるわせて 歌声よおこれ この夜に (『歌声よおこれ』 サンボマスター)

すべての人々の心に、哀しみを越えて歩みをうながす力が興って欲しい。住職継職という出発点に於いて、そんな願いを込めてこのビデオを作りました。どうぞ、ご覧下さい。